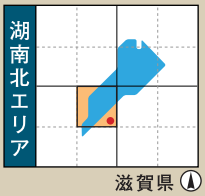
名勝
国指定

兵主神社庭園（ひょうず じんじゃ ていえん）

中主町五条　昭和28年3月31日指定



養老2年（718）に現在の地に遷座したと伝えられる兵主神社は、武神として、源頼朝、足利尊氏らの厚い崇敬を集めました。本殿脇西南に広がる庭園は、鎌倉時代の作と考えられてきましたが、最近の調査の結果、その前身が平安時代後期にまで遡ることが明らかとなりました。

当時のできごと	
718年	養老律令成る
1175年	法然 専修念仏を唱える
1185年	平氏滅亡



兵主神社庭園

兵主神社庭園

兵主神社庭園は、鎌倉時代にあった豪族の館の庭園を整備し、現在の姿となった、と、推定されていたことから、貴重な鎌倉期の庭園として昭和28年に名勝に指定されました。庭園は池庭で、汀（みぎわ）は強い曲線をなし、東隅に中島を配し、池の南に起状の緩い築山を造る古い様式を示すとされてきました。

しかし、平成2年の台風により、大きな被害を受けた庭を整備するため、発掘調査を実施したところ、現在地表に見える庭は、江戸時代までに荒廃していた古庭を、明治時代に、大きく整備し直したものであることがわかり、さらに、この前身となる庭は、これまで考えられていた鎌倉時代より古い、平安時代後期のものであることがわかりました。



兵主神社庭園中島



兵主神社境内測量図

兵主神社庭園の原型

発掘調査の結果、庭園の原型は12世紀後半頃に作られたもので、現在の池岸を一周する形で巡る幅1mの州浜と、池水の導水溝として、約160mにもおよぶ遣水（やりみず）跡が見つかりました。遣水は途中で分岐し、一つは池に流れ、一つは築山を巡ります。このように、原型庭園は、遣水が留まることなく流れる、流れの庭であり、これまで知られている寝殿造庭園、浄土庭園とは系譜を異にし、むしろ池から大量に出土した祭りに使われた土器類から、古墳時代の水辺の祭祀に起源を持つ庭と考えることができます。



発掘された原型庭園洲浜



発掘された原型庭園洲浜

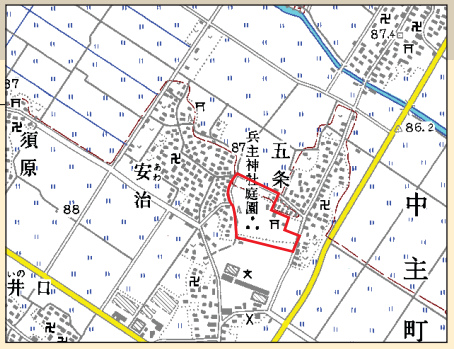
関連する文化財

兵主神社楼門（県文）	天文19年（1550）建立。全国的にも遺例の少ない1間1戸の楼門
白絹包腹巻（重文）（兵主神社）	胴や草摺を白い布で包んだ鎧（腹巻）で衣服の下に着込むためのもの。南北朝時代の作
平等院庭園（京都府宇治市）	近年の発掘調査により明らかになってきた、代表的な浄土庭園

もっと深く知りたい

中主町教育委員会　☎077−589−2511　野洲郡中主町西河原2400

兵主神社庭園へのアクセス　JR琵琶湖線　野州駅下車



【参考文献】〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔日本庭園史体系〕社会思想社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月